

# 筑前町ビーチボールバレー 競技規則

令和7年5月15日制定

筑前町ビーチボールバレー協会



## 概説

筑前町ビーチボールバレーは、朝倉市郡の地域で古くから町民に親しみ触れ合われたスポーツで50年・60年前からとも言われています。また、時代と共にバレーでも様々なボールやルールが各地域でローカルルールとして変化を続け、その地域に見合うルールとして定着してきました。しかしながら協会として競技規定のルールブックとして昔ながらのルールブックしかなく、言い伝えとしてきたルールでの町民スポーツとしてきました。今後、より親しみ・体力・健康づくりを目指し、町民のふれあいの場を目的に競技規定を制定するに至りました。新制定にあたり、ベースは言い伝えとしてきたルールに基づいての作成になり、今後時と共により良いルールに変更されルールブックに上書きをされる事を期待し、老若男女問わず末永く楽しめるビーチボールバレーとなっていく様に制定いたしました。

## 1. コート

コートはバドミントンのダブルスコート(13.40m×6.10m)を使用する。

## 2. 用具

ネット・ポールはバドミントン用具を用い、ネットの高さは180cmとする。

## 3. ボール

ボールは市販のビーチボールバレー用を使用する。(直径35cm)

## 4. チーム

(1) チームは10名以内(キャプテンはキャプテンマークを付け1名を決めておく事)

(2) 試合は前衛2名、後衛左右に1名ずつのポジションで計4名とする。

### 混成チーム

(3) 混成チームには男女2名ずつで構成される。

(4) 64歳以下の男性(高校生以上)は2名以内とする。

(5) 中学生は4名フリーで参加できる。(小学生以下はキッズの部)

## 5. ゲーム

(1) 試合開始前にチーム全員はコート最終ラインに並び審判の支持により挨拶をする。また、セット毎の終わりも挨拶で終わる。

(2) 試合は審判のホイッスルでインプレーが始まりホイッスルでアウトプレーになる。

選手の判断で中断は選手交代や負傷や体調の変化の時のみに限定される。

当然、他からのボールや侵入者などの中断判断も審判の指示のみの為、審判の早めの判断が大事になる。

(3) 両チームの代表がジャンケンによりサーブかコートのいずれかを選択する。

(4) ゲームは15点の3セットマッチとし2セット先取したチームの勝ち(大会により変更できる)

(5) ゲームはラリーポイント制で15点先取デュースは無い。(大会により変更できる)

(6) 3セット目に入った時はサーブ権、コートのジャンケンをする。また、8点先取したらコート

チェンジする。(審判・選手の申告制で決まる)

- (7) サーブ・ラリー中にボール、アンテナにボールが当たった時点でアウトになる。また、1、2回触っている時にネットにボールが引っ掛かって落ちて来ない場合はノープレーとする。
- (8) 二人が同時に触れた場合は一回とみなしどちらかがもう一度プレーができる。
- (9) タイムアウトは選手交代以外のセット中はできないが主審の裁量でできる。
- (10) セットとセットの間の休憩タイムは3分とする(大会により変更できる)

### ブロック

- (11) ブロックはネット前で指・手・腕が触れた時で1回と数えない。あくまでも壁としての守りであり攻撃の手段ではない。頭などに当たった場合は1回と数える。
- (12) インプレーの時、相手コートにあるボールにネットを超えて触れる事は出来ない。
- (13) 相手からのボールにブロックをした後にその勢いで手が相手チーム側に入っても相手側でボールに触れていない限りインプレーである。

### 交代

- (14) メンバー交代はセット毎に3人迄で、一度アウトした選手はセットが替る迄は出られない。

### サーブ

- (15) サーブは主審の合図と共にインプレーになりサーブができる。
- (16) サーブは後衛右枠内の選手がサーブスコートライン内側からアンダーハンドで打つ。アンダーハンドサーブとは腰と腕の間がボール1個以内又は45度を超えない。また、腰から下でボールを打つ。反則はサーバーに注意を与え、相手に1点とサーブ権が移る。ただし、サーブが柔らかく相手のレシーブ態勢に支障がない場合はその限りではない。また、主審の合図無しで選手の判断で止める事は出来ない。
- (17) サーブ権の移動時はサーブ権を得た時に時計周りで位置を移動する。
- (18) サーブされたボールを相手チームは1回で返す事は出来ない。
- (19) サーブをする時、一度手から離れたボールをダイレクトで触れてサーブをしない場合はアウトで相手得点になる。ダイレクトで床に落とした場合はサーブスコート内に限り再度サーブができるがサーブスコート外やライン上に落ちた場合はアウトになり相手得点とサーブ権が相手側に移る。
- (20) サーブ順を間違えサーブまでした時はアウトで相手得点になりサーブ権移動。
- (21) サーブのボールはアンテナの内側(高さは天井まで)を通らないといけない。アンテナ・ネットに接触やアンテナの真上を通過したなどもアウトになる。また、サーブ後味方チームの者が最初に接触した場合もサーブアウトになる。
- (22) サーブは手のひらが下から上に上がってまた床側に降りてくるアンダーであり頭や顔の位置を手のひらが通る様なオーバーサーブはアウトになる。
- (23) サーブのボールが相手コート側に行き最初に触れるのは決められたポジション選手で、その選手の両足が出て他の見方ポジションのボールに触れない。(片足は決められたエリア内であればセーフでその片足がラインを踏んでいた場合はアウト)
- (24) サーバーはサーブをした時、相手がボールを触るまではサーブスコートエリア以外に出たりラインを踏むはできない。

### セーフとアウト

- (25) 1回のタッチとみなすのは腰より上のどの部分でもいいが、腰より下で触れた場合は相手の得点になる。
- (26) アンテナに接触やアンテナ外から相手コートに入った場合はアウト。

- (27) コート外で直接に体(服を含む)の一部に当たった場合は相手の得点になる。
- (28) ボールが外線の中心から半分ないし半分以上内側にボールが落ちるとインとし半分未満はアウトになる。
- (29) サーブ時は規則に反する行為はアウト。合図前にサーブをした時はやり直し。
- (30) プレー中に相手コート内に足が入る事態は問題ないが相手選手の足を踏むなど接触をした場合はアウトになる。
- (31) インプレー中に髪の毛がネットに触れた場合はセーフで、明らかにボールに当たった場合は一回と数える。出来るだけ髪の毛は束にして支障のない様に心がける事。
- (32) インプレー中に個人の判断で危険な場合以外は中断しない。審判の合図を無しに中断した場合はアウト。
- (33) 主審がセーフまたはアウトを最終的に告げた時。

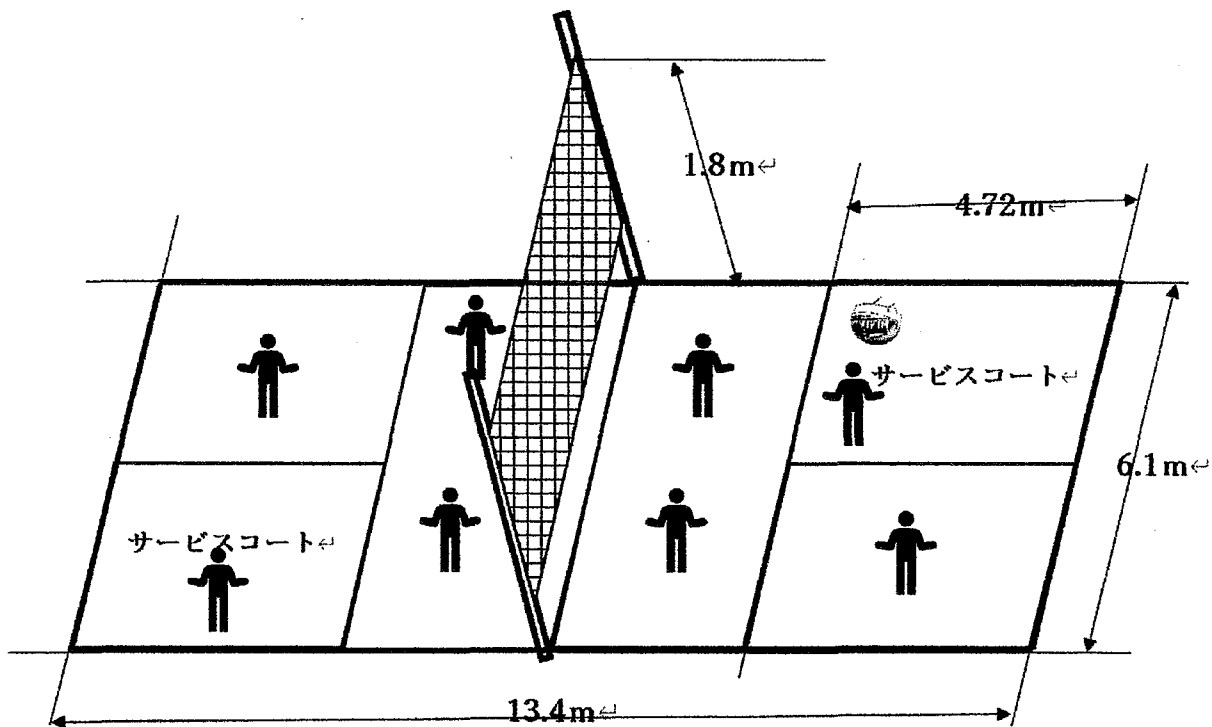
**その他**

- (34) 審判の判断は順守すること。
- (35) キャプテンはチームをまとめ競技規定を重んじて順守させる責務を負う。
- (36) 試合の中で、セット事に2回までは判定に不服申立てができるが、キャプテンマークを付けた者以外は出来ない。

**6. スポーツマンシップに反する行為の厳罰化**

- (1) 審判に対しての抗議はキャプテンマークを付けた者以外はできない
- (2) 審判に対しての抗議は審判全員で話し合い最終的に主審が告げる。
- (3) 試合中に審判や相手チームなどにヤジと認められる行為を審判が判断した場合は、一度キャプテンやチームに主審が警告をする。再度、審判が確認した場合はそのチームはその試合は棄権とし試合に出られない。

その後も続く場合は、会場からの退場勧告も受け退出しなければならない。応援団も同じ行為があれば即退場勧告を受け館から退出しなければならない。



筑前町ビーチボールバレーボール協会

会 長 佐多 良友  
作成補助 友永 芳信